

SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2012	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
3	 幻のモダニスト 写真家堀野正雄の世界 3月6日(火)～5月6日(日)	 ©The J. Paul Getty Museum, Los Angeles, Partial gift from the Wilson Centre for Photography J・ポール・ゲティ美術館コレクション フェリーチェ・ペアトの東洋 3月6日(火)～5月6日(日)	APAアワード2012 3月3日(土)～3月18日(日)	 『父の初七日』 3月3日(土)～
4			 生誕100年記念写真展 ロペル・ド・アノー 3月24日(土)～5月13日(日)	 『新しき土』 4月7日(土)～
5	 夢のかざとり(仮称) 5月12日(土)～7月8日(日)	 川内倫子展 照度 あめつち 影を見る 5月12日(土)～7月16日(月・祝)	第37回JPS展 日本写真家協会展 5月19日(土)～6月3日(日)	
6			 世界報道写真展2012 6月9日(土)～8月5日(日)	
7	 自然の鉛筆(仮称) 7月14日(土)～9月17日(月・祝)	 夢の光 田村彰英 7月21日(土)～9月23日(日)	 David Bowie「Heroes」1977年 鏡田正義 レトロスペクティヴ(仮称) 8月11日(土)～9月30日(日)	
8			JPA展 10月6日(土)～10月21日(日)	
9	 機械の眼(仮称) 9月22日(土)～11月18日(日)	操上和美 時のポートレート ノスタルジックな存在に なりかけた時間 9月29日(土)～12月2日(日)		


※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。


ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、その翌日) ※ただし5月1日(火)は開館します。
- 開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで

割引チケットの販売

お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。


東京都写真美術館
 〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099
<http://www.syabi.com>

携帯サイトはこちら 

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。



eyes
| 2012 Vol.73 |

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY
NEWS MAGAZINE

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。
 東京都写真美術館ニュース「アイズ12」73号 ●発行日：2012年3月5日 / 企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係
 ●印刷・製本：JTB印刷株式会社 ●発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2012 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。

平成24年度 東京都写真美術館自主企画展

川内倫子展 照度 あめつち 影を見る

KAWAUCHI Rinko Illuminance, Ametsuchi, Seeing Shadow

現在の日本を代表する写真家の一人として国内外に多くのファンを持つ川内倫子。木村伊兵衛写真賞を受賞したデビュー作『うたたね』『花火』発刊から10年目にあたる昨年、彼女の代名詞ともなってきた6×6のカラー写真による写真集『Illuminance』（イルミナンス）を世界同時発売した。5月から開催される個展では、日本語で「照度」という意味をもつこの《Illuminance》と、新シリーズ《あめつち》《影をみる》が展覧される。まさに今、作家としての大きな転換期を迎えている彼女に話を聞いた。



無題 シリーズ《Illuminance》より 2009

写真集『Illuminance』は、6×6のフォーマットで撮影してきた作品の集大成だと思いますが、構成は自分でされたのですか？
「構成は自分にとってとても大事な作業です。写真のセレクトやレイアウトを繰り返したり、プリントを何回もやり直したり。たった一枚の写真を入れ替えるだけで写真集全体の見え方が大きく広がることもある。例えるなら、鍋の灰汁をすくって透明にしていとか、粉をふるってサラサラにしていく感覚に近いのですが、そういう細かい作業を繰り返していくと、その先に見えるものがある。この発酵

【表紙】無題 シリーズ《Illuminance》より 2007

時間を経て、はじめて作品を発表する段階に進むことができるんです」

作品制作において一貫したテーマや問題意識はありますか？

「自分の記憶が混乱する、例えば、寝起きの時に夢と現実を混同したり、自分の過去から何でもない出来事をふと思い出したり。それがとてもリアルで、ものすごく気持ち悪くなる時があります。日々見ている景色は覚えていなくても、実はそれらは全部脳の中に入っていて、それを内包しながら自分たちは生きている。そんな強迫観念のようなものがいつも自分にはあって、とても怖くもあり、またインスピレーションを受ける源ともなっている。そういう意味を込めて、最初に出した写真集には『うたたね』というタイトルをつけたんですが、『Illuminance』もそのコンセプトは変わりません」

写真を撮ることで、時間や記憶の束縛から解放されたいということでしょうか？

「写真を撮る時は、その一瞬に集中するわけですが、そうすると過去も未来もなくなるように感じる。その瞬間に集中できることが喜びだし、救いだし、自分がクリアになる、もしくは自由になれる瞬間。だから、写真集を作る時にも、時間や場所が特定できる要素はすべて取り除いて構成しています」

川内さんの作品は海外でも度々話題になります。

「海外の人にはよく、あなたの写真は俳句でしょ？と言われる。最初はピンときませんでしたけど、最近は、たしかに俳句かも！と思うようになりました（笑）。自然や日常のモチーフを使って、ある形式美、様式美にはめていくという手法が、彼らの俳句に対する解釈と近いのかもしれない。欧米の一神教ではなく、神道的なもの、八百万の神様がいるという日本の文化や、さまざまところに崇高なものを発見するという感性を作品に見いだして解釈をしてくれることが面白いと思います」

新作《あめつち》のシリーズは、4×5の大判カメラを使用されていますね？

「きっかけは、阿蘇の野焼きを撮り始めたことでし

上、下）無題 シリーズ《あめつち》より 2012

た。最初はいつも通り6×6のローライフレックスと4×5、35ミリのカメラを持っていたのですが、撮影してみたら4×5が一番しっくりきた。阿蘇の雄大さや野焼きというものに対して畏敬の念をもって取り組むには、他のカメラよりも多くの手順を必要とする4×5が合うと思いました」

野焼きという儀式に対して、4×5での撮影という儀式で臨むということですか？

「6×6で撮るという行為は、一瞬のはかなさをさっと



すくい上げるような感じだけど、4×5の撮影は被写体と腰を据えてじっくり向かい合わないといけない。

いろんな要素が入ってくる被写体はとも魅力的です。野焼きそのものが持っている意味や炎に対する単純な怖さ、阿蘇の広大さ。阿蘇を撮影した今回のポスターのビジュアルは、まさに陰と陽という感じですね。二元性を感じさせるものにはとても惹かれるし、相反する二つのものが混ざり合うことによって強度が増してくると思うんです」

写真を撮ることが、そういう二つをつなぐ行為と感じる？

「天と地が別れたところから世界が始まったという神話があります。常に相反するものがバランスをもって成り立っている、それが世の中の理であるとするれば、天と地はまさにその起源。そこに思いが至ったときに答えがぼろぼろと見えてきて、同時期に平行して撮っていたイスラエルの嘆きの壁や、宮崎県の銀鏡神社の夜神楽などが、答え合わせみたいにどんどんつながっていきました。文明や文化の起源であり、それをつなぐのが人なんだと思いました。

天があるから光があって、その光を受け止めて写るのが写真で…そういうことを考えるとすごく面白いなと思って」

今回の展示では、映像作品も登場します。

「映像は写真より身体感覚に近い感じが



上、下)無題 シリーズ《あめつち》より 2012

するんです。だから、写真と映像をあわせて展示することで、作品の見え方も広がるんじゃないかと思っています」

最後に、今回の展覧会へ向けた抱負を。

「15年ほど撮り続けてきた6×6のカラー写真に一区切りが付き、新シリーズが発表できる段階まで来たところで、個展を開催する機会を得られたことがとても嬉しいです。作品を多くの人々と共有していくことの大切さを、前にも増して感じるようになりました。そういう意味でも、今回の展示は自分でもとても楽しみにしています」

聞き手=石田哲朗(東京都写真美術館学芸員) 構成=富田秋子
2012年1月インタビュー

左)無題 シリーズ《あめつち》より



2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

5月12日(土) → 7月16日(月祝)

平成24年度 東京都写真美術館自主企画展

川内倫子展 照度 あめつち 影を見る

KAWAUCHI Rinko Illuminance, Ametsuchi, Seeing Shadow

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/産経新聞社 □ 協賛:富士フィルム株式会社
東京都写真美術館支援会員 □ 協力:スガアート/フルハウス/Fondation d'entreprise Hermès
□ 後援:サンケイスポーツ/タ刊フジ/フジサンケイビジネスアイ/iza!/SANKEI EXPRESS

当館では2000年以降の時代を代表する写真家として若い世代を中心に支持され、国際的にも活躍する川内倫子の個展「照度 あめつち 影を見る」を開催します。川内倫子は、私的な日常光景を切り取り、つなぎあわせ、普遍的な生命の輝きへと昇華させる写真表現によって同時代の高い評価を獲得してきました。特定の時間や場所を記録する写真の束縛から解放された瞬間瞬間の光景には、光と闇、生と死、過去と現在が交錯し、容易に言葉に置き換えることのできないイメージの純粋さは、見る者のさまざまな記憶や感情を呼び覚まします。初公開となる新作シリーズでは、早春の阿蘇山の野焼きのイメージを中心に地球上の数々の事象をとおして、作家の感覚と直観がより大きな世界へと向けて開かれてゆきます。新たなアプローチによる映像作品の出品も今回の大きな見所のひとつです。本展は、2011年発表のシリーズ《Illuminance》(イルミネランス)と最新作《あめつち》《影を見る》からなる展示構成によって、川内倫子の作品世界の魅力と本質、そして新たな展開にせまります。

■ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 14:00~
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

■ 展覧会関連イベントを予定しています。

【対談/内藤礼(現代美術作家)×川内倫子】
□日時:5月25日(金)18:30-20:00 □会場:1階ホール(定員190名)

【対談/原田郁子(音楽家)×川内倫子】
□日時:6月22日(金)18:30-20:00 □会場:1階ホール(定員190名)

対象:本展覧会の半券をお持ちの方。
受付:先着順/当日午前10時より1階受付にて入場整理券を配布します。
※詳細はホームページをご確認ください。



《影を見る》より 2012



無題 シリーズ《Illuminance》より 2007

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

3月6日(火) → 5月6日(日)

J・ポール・ゲティ美術館コレクション
フェリーチェ・ベアトの東洋
 Felice Beato: A Photographer on the Eastern Road

一般 800(640)円 学生 700(560)円 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞 協賛:凸版印刷株式会社
 アサヒビール芸術文化財団/東京都写真美術館支援会 協力:日本航空 特別助成:アメリカ合衆国大使館

幕末～明治の横浜に滞在し、激動期の日本を活写した写真師フェリーチェ・ベアト(1832-1909)。本展はJ・ポール・ゲティ美術館のコレクション展作品に当館所蔵のベアトコレクションを加えた、日本初のレトロスペクティブ。至宝ともいべき約150点の展示作品を通じて、戦場カメラマンとしても知られるベアトの生涯を振り返ります。

❖ **鶏卵紙ワークショップ** ※1日1コース 事前予約制
 日程:2012年4月1日(日)、4月7日(土)各10:00~17:00
 ※詳細はホームページをご確認ください

❖ **講演会「幕末のタイムカプセル:フェリーチェ・ベアトの日本」**
 日程:2012年4月15日(日)18:30~20:00
 講師:高橋則英(日本大学芸術学部写真学科教授)
 会場:東京都写真美術館 1階ホール(定員190名)
 対象:本展覧会の半券をお持ちの方は、どなたでもご参加いただけます。
 ※詳細はホームページをご確認ください

❖ **担当学芸員によるフロアレクチャー** 第2・4金曜日 14:00~
 および4月29日(日・祝)、4月30日(月・代)~5月6日(日)14:00~(約1時間程度)
 ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

フェリーチェ・ベアト 冬着姿の女性 1868年頃 鶏卵紙に手彩色 J・ポール・ゲティ美術館蔵
 ©The J. Paul Getty Museum, Los Angeles, Partial gift from the Wilson Centre for Photography
 ※この展覧会は、ロサンゼルスJ・ポール・ゲティ美術館が企画しています。This exhibition has been organized by the J. Paul Getty Museum, Los Angeles



3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

3月6日(火) → 5月6日(日)

幻のモダニスト **写真家堀野正雄の世界**

一般 700(560)円 学生 600(480)円 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催:東京都写真美術館/読売新聞本社/美術館連絡協議会
 協賛:ライオン株式会社/清水建設株式会社/大日本印刷株式会社/株式会社損害保険ジャパン



❖ **シンポジウム「堀野正雄の現代的意義」**
 日時:4月21日(土)18:00~20:00
 東京都写真美術館1階ホール
 ※本展覧会の半券をお持ちの方はどなたでもご参加いただけます。
 ※詳細はホームページをご確認ください

❖ **担当学芸員によるフロアレクチャー**
 第2・4金曜日 16:00~
 ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

題不詳(さざえを持つ水着姿の女性)1935-38年

堀野正雄(1907-1998)は、その強烈なまでに個性的な作風により、近年になって再評価された「幻のモダニスト」です。本展は初公開のオリジナル・プリント作品約100点を中心に、関係資料など併せて200点以上を展示。堀野の仕事の全体像を明らかにすることで、1930年代を中心とする写真史にあらたなヴィジョンを構築します。

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

3月24日(日) → 5月13日(日)

生誕100年記念写真展
ロベール・ドアノー

一般 800(640)円 学生 700(560)円 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催:クレヴィス 共催:東京都写真美術館 協賛:キャンノンマーケティングジャパン株式会社
 協力:アトリエ・ロベール・ドアノー/株式会社DNPアートコミュニケーションズ/エールフランス航空 後援:フランス大使館



芸術橋上のフォクステリア 1953年



パリ市庁舎前のキス 1950年

自由な精神と類まれな洞察力で日常の小さなドラマをとらえ、希代の演出家として写真史に足跡を残したロベール・ドアノー(1912-1994)。本展は約40万点に及ぶネガから約200点を精選することで、パリを舞台にした代表作はもとより、1920年代の初期作品から初公開のカラー作品まで彼の全仕事を回顧。その作品の一つひとつが、一枚の写真が持つ表現の可能性を私たちに問いかけ、新鮮な輝きをもって新たな感動を呼び起こすでしょう。

❖ **展覧会関連イベント**

【トークショー/フランシヌ・ドルディール】
 (ロベール・ドアノー次女、アトリエ・ロベール・ドアノー代表)
 日時:3月24日(土)14:00~15:30
 会場:2Fラウンジ(定員50名)
 申し込み方法:当日10時より館内1階総合受付にて
 本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの方に整理券を配布致します。

©Atelier Robert Doisneau
 ◎お問い合わせ ☎ クレヴィス 03-5784-2466

B1F

5月19日(日) → 6月3日(日)

第37回JPS展 日本写真家協会展

一般700円 学生・65歳以上400円 高校生以下無料

1950年に創立した日本写真家協会では、写真文化の振興普及のため、写真愛好家を対象にフォトコンテストを開催し、今年で37回を迎えました。JPS展の出品者からは多くのプロ写真家が生まれています。

◎お問い合わせ ☎ 日本写真家協会 03-3265-7451

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

7月21日(土) → 9月23日(日)

夢の光 田村彰英

Light of Dreams: Tamura Akihide Exhibition

□ 一般 600(480)円 □ 学生 500(400)円 □ 中高生・65歳以上 400(320)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金

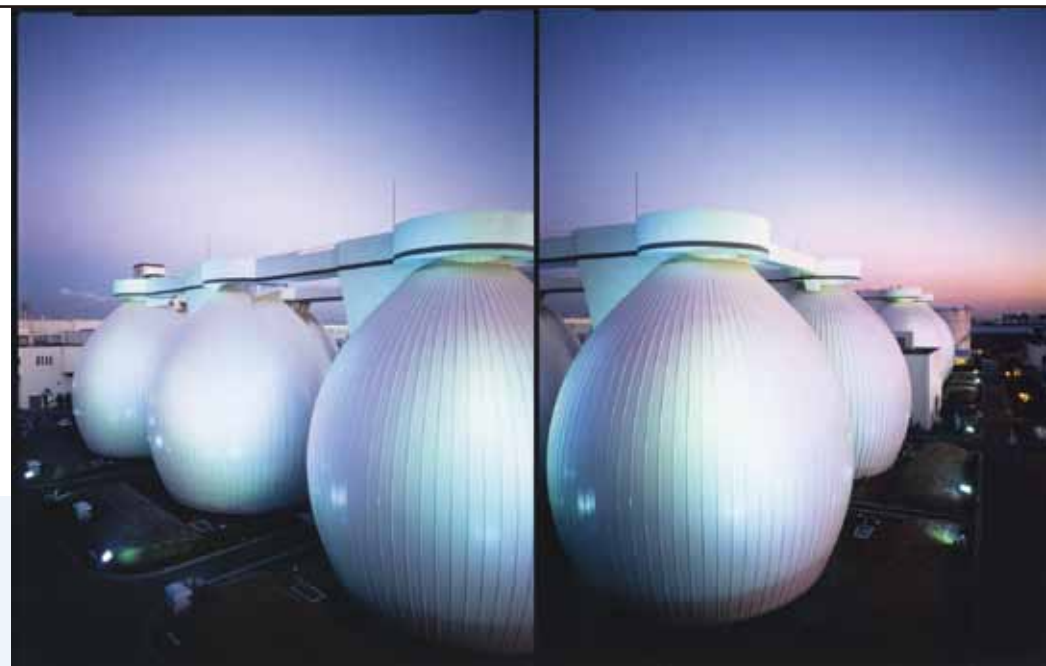
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催: 東京都 東京都写真美術館 / 読売新聞本社 / 美術館連絡協議会 □ 協賛: ライオン株式会社 / 清水建設株式会社 / 大日本印刷株式会社 / 株式会社損害保険ジャパン / 日本テレビ放送網株式会社 □ 協力: 日本カメラ社



上)シリーズ「BASE」より 横須賀 1967年
下)シリーズ「新BASE」より 厚木 2011年

田村彰英は東京総合写真専門学校在学中から、同校の校長であり写真評論家でもあった重森弘淹にその才能を認められ、1974年にニューヨーク近代美術館で開催された「ニュー・ジャパニーズ・フォトグラフィー」展に「家」シリーズを発表。同作品が学芸部長ジョン・シャカフスキー氏に推荐され永久保存となる他、多くの作品が国内外の美術館に収蔵されています。また、都市の景観を記録したシリアスな作品を精力的に発表し、常に日本の現代写真の第一線で活躍し続けてきました。本展覧会は国内の米軍基地を撮影したデビュー作「BASE」から、未発表作品を含む近作約100点で創作活動の軌跡をたどり、時代を経ても色あせない田村の写真世界を検証します。



田村彰英 (たむら・あきひで 1947~)

東京生まれ。1968年、東京総合写真専門学校研究科卒業。74年、「ニュー・ジャパニーズ・フォトグラフィー」展(ニューヨーク近代美術館)、「15人の写真家展」(東京国立近代美術館)に参加するなど、20代の頃よりその才能を認められ、日本を代表する写真家として頭角を現す。84年、写真集「TAMURAPHOTOGRAPHS」に対して、日本写真協会新人賞を受賞。「影武者」「乱」「夢」「八月のラブソニー」の撮影現場のスタイルを担当し、黒澤明監督から高い評価を得る。写真家として雑誌、広告などで活躍する一方で写真教育にも力を注ぎ、東京総合写真専門学校他で教鞭をとる。

1)シリーズ「湾岸」より 横浜 1992年 2)シリーズ「午後」より 1972年
3)座礁船 三重県津市 1994年 4)シリーズ「家」より 1968年6月22日

担当学芸員によるフロアレクチャー

第2・4金曜日 14:00~

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

3F

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレビューSuicaカード割引

3階展示室

Exhibition Gallery

平成24年度東京都写真美術館コレクション展

「夢のかきとり」(仮称)

「自然の鉛筆」(仮称)

「機械の眼」(仮称)

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円

□ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館

当館では年度ごとのテーマに基づき、収蔵作品約2万8000点から独自の視点で選りすぐった名品の数々で構成するコレクション展を開催しています。平成24年度は「表現と技法」をテーマに、写真の黎明期から現代まで写真表現にさまざまな工夫を施してきた作家たちの技法を、5月から3回に分けて紹介します。

5月から始まる「夢のかきとり」(仮称)では、コラージュ、フォトモンタージュ、ディストーション(歪曲)など、写真(イメージ)に手を加えて新たな表現を創出した作品を中心に展示します。7月からの「自然の鉛筆」(仮称)では、ネガフィルムの変遷とそれにみる表現、赤外線写真の魅力、さらに印画紙の古典技法と現代表現やモダニズムにみるカメラレス印画などにスポットをあてた作品と資料を展示します。そして、9月からの「機械の眼」(仮称)では、ライカがもたらした小型カメラの視覚世界や時間を写す表現、レンズのピントを効果的に使った表現、望遠レンズと広角レンズなどの切り口から作品を構成するとともに、関連するカメラやレンズを資料として展示します。

当館ならではの企画性、充実した資料や展示作品、そして写真史を支えてきた作家たちのアイデアとその個性的な表現手法の数々を年間を通じてお楽しみいただける展覧会です。

✚ 担当芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 16:00~
 ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

✚ 展覧会関連イベント
 ※詳細につきましては決定次第ホームページで発表します。

「夢のかきとり」(仮称)

5.12(土) >>> 7.8(日)



小石清<泥酔夢・疲労感>1936年



左)澤田知子<スクールデイズA>2004年



中央)奈良原一高<静止した時間#38>1964年



右)平井輝七<月の夢想>1938年

「自然の鉛筆」(仮称)

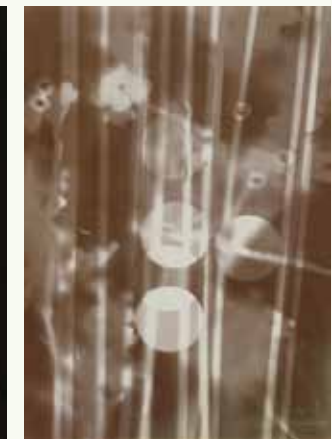
7.14(土) >>> 9.17(月・祝)



森山大道<新宿>1969年



左)石元泰博<とんできた色紙#3>1989年



中央)ラスロ・モホイ=ナジ<フォトグラム>1922年頃



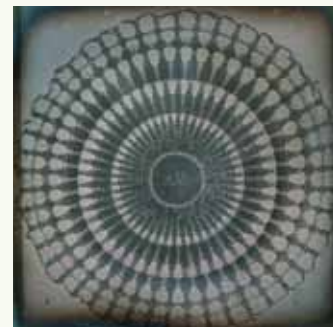
右)マン・レイ「エレクトリシテ」より 1931年

「機械の眼」(仮称)

9.22(土) >>> 11.18(日)



宮崎学<ホンビメネズミ>1977年



左)ウィリアム・ベンジャミン・カーペンター<ウニのとげの断面>1848・49年



中央)ビル・ブラント<East Sussex Coast>1957年



右)植田正治「白い風」より 1981年

>>> 出品予定作家

「夢のかきとり」(仮称)

ル・グレイ、ヘンリー・ビーチ・ロビンソン、マン・レイ、アンドレ・ケルテス、中山岩太、小石清、澤田知子、志賀理江子など

「自然の鉛筆」(仮称)

ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット、マン・レイ、ラスロ・モホイ=ナジ、マイナー・ホワイト、大東元、シーラ・メッツナー、小川隆之など

「機械の眼」(仮称)

アンリ・カルティエ=ブレッソン、イードワード・マイブリッジ、リー・フリードランダー、福原路草、石元泰博、緑川洋一など

世界報道写真展2012

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：朝日新聞社／世界報道写真財団 □ 共催：東京都写真美術館
□ 協賛：キャンマーケティングジャパン株式会社(予定)／ティエヌティエクスプレス株式会社(予定)

1年を通じて世界各地で開催される「世界報道写真展2012」を今年も東京都写真美術館で開催します。今年、2011年に撮影された10万1254点の中から選ばれた、計57人の写真家の作品を展示します。

今年1月から2月にかけてオランダで開かれた「世界報道写真コンテスト」には124の国と地域から5247人の写真家が作品を応募しました。コンテストの受賞作を展示する本展は名実ともに、世界のトップクラスの報道写真を目にすることができる貴重な機会です。

今年の大賞にはサムエル・アランダ氏(スペイン)がイエメンのモスクで傷ついた男性を抱きかかえる女性を写した作品に決定。男性と女性のコントラストがその土地の歴史や風土までも写し出しています。

また今年には東日本大震災と大津波の爪痕を写した作品も多く受賞しました。朝日新聞東京本社恒成利幸カメラマンが写した被災地で涙を流す女性や、毎日新聞社の手塚耕一郎氏がヘリコプターから撮影した押し寄せる津波、またAFP通信社サンパウロ支局の千葉康由氏が被災地で撮影した組写真が入賞を果たしたほか、AP通信社のデービッド・グッテンフェルダー氏やマグナムフォトのパオロ・ベレグリン氏も被災地を独自の視点で切り取り評価されました。フランスのドゥニールーブル氏は生存者である一人の女性をポートレート作品に結実させています。

世界報道写真展は世界45の国と地域、約100会場で開催され、約200万人もの来場者を集める世界規模の写真展です。この機会にぜひお越しください。

✂ 展覧会関連イベントを予定しています。
※詳細は決定次第、ホームページで発表します。



6.世界報道写真大賞2011

サムエル・アランダ(スペイン) ニューヨークタイムズ イエメン、サヌア(=10月15日)
サレフ大統領に対する抗議の最中に負傷した親族の男性を抱きかかえる女性

1.「自然」の部 組写真1位

ブレント・スティルトン(南アフリカ)
雑誌National Geographic
のためのGetty・イメージズによる
ルポルタージュ
南アフリカ(=2010年11月9日)

サイの角は国際市場で金よりも値打ちがある。南アフリカだけで、2011年に密猟によって角をなくしたサイは400頭を超える。サイの角はアジアの中産階級や富裕層の間で需要が増している。

2.「スポットニュース」の部 単写真1位

ユーリ・コズイレフ(ロシア)
Noor Images,タイム誌
リビア(=3月11日)

リビアでは指導者ムアンマル・カダフィ氏に対する反乱が数週間にわたって続いた。しかし、独裁政権側が戦闘機や戦車によって攻勢をかける、果敢な抵抗も勢いを失っていった。

3.「現代社会の問題」の部 単写真1位

ブレント・スティルトン(南アフリカ)
Kiev Independentのための
Getty・イメージズによるルポ
ルタージュ
ウクライナ(=8月31日)

麻薬中毒で売春婦のマリア。日常的に麻薬を打ち毎週大勢の男性の相手をするが、HIVには感染していないと断言する。生計を立て、麻薬と9歳の娘のためにお金が必要だと話す。

4.「一般ニュース」の部 単写真3位

恒成利幸(日本)朝日新聞社
(=3月13日)

宮城県名取市でがれきの間にしゃがみこんで泣く女性。

5.「一般ニュース」の部 組写真2位

パオロ・ベレグリン(イタリア)
マグナムフォト、Zeit Magazin
日本(=4月14日)

マグニチュード9.0の地震が日本の東北沿岸部を直撃し、高さ38メートルにも及ぶ破壊的な津波を引き起こした。

